

平成19年度 事務事業評価表	担当	市民福祉部 長寿課 養護老人ホーム	内線等	8004
事務事業名	入所者の生活、指導・介助事業		事業コード	1. 一般事務事業（ソト事業）
根拠法令等	老人福祉法		A 法令	

総合計画での位置付け

基本目標	3. 健康で安心して暮らせるまちづくり	施策名	高齢者福祉
------	---------------------	-----	-------

事務事業の内容

対象（受益者）	養護老人ホームの
手 段	生活の指導や介助事業を行うことによって
想定する成果	快適で楽しい老後の入所生活ができる環境作りの提供をする。

事業の概要

項 目	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度計画
延入所者数	318人	289人	360人
月平均入所者数	27人	24人	30人
内訳 市内	18人	18人	24人
内訳 市外	9人	6人	6人

成果指標

成果指標名	入所充足率
成果指標の説明	延入所者数 / 延定員（600人）

事業の進捗状況 （ 一般 会計 ） （単位：千円）

		平成18年度決算（実績）				平成19年度決算（実績）				平成20年度予算（計画）			
成果指標		53.0%				48.2%				60.0%			
成果指標													
事業費	事業費	5,299				4,518				5,817			
	人件費	46,704				46,860				47,070			
	(人数)	正規	6.0	非常勤		正規	6.0	非常勤		正規	6.0	非常勤	
	合計	52,003				51,378				52,887			
財源内訳	国	0				0				0			
	県	0				0				0			
	市債	0				0				0			
	その他	2,803				3,754				3,429			
	一般財源	49,200				47,624				49,458			

事務事業内容の評価

項目	課内評価		部長評価		評価の説明(問題点)
	19評価	16評価	19評価	16評価	
達成度	2	3	2	3	定員50名の施設であるが、すでに築37年を経過している居室、他の設備等の現状を考慮して予算措置は30人で要求している。当初定員より入所充足率は低下しているが、高齢化による認知症身体不自由の増加で生活介助等日々の生活を快適に暮らせるよう工夫努力してきた。
経済効率性	2	2	2	2	国基準の措置費の範囲内で、入所者の生活に必要な費用を効率よく配分した。
事務効率性	2	2	2	2	職員は国の職員は配置基準に基づいているが、入所者の高齢化・病弱化により、介助に多くの時間を要する。
必要性	2	2	2	2	入所理由に経済的困難な高齢者が多くなってきた。国の基準に基づいて職員の配置運営すると、経済面で困難が生じているため運営面での今後の検討が必要である。
小計	8	9	8	9	
施策への貢献度	2	-	2	-	入所者の高齢化・病弱化により、手間がかかるようになっている。ボランティア・慰問者等の協力により、清掃・洗濯・繕い物奉仕で手助けをうけている。
合計	10	9	10	9	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	B	B	今後も、さらに入所者に充実した生活、介助、指導に引き続き努力していきたい。
------	---	---	---	---	---------------------------------------

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

前回(H16評価時)「今後改善すべき点」として記載した内容及びその実施状況

前回(H16評価時に)記載した「今後改善すべき点」
毎月の指導員・寮母検討会を開き、入所者の処遇について改善を求めてきた。
上記改善点の実施状況
毎月の指導員・寮母検討会は、入所者の処遇、又は問題点を出し検討して少しずつ改善できるようになった。また、毎週末には、さらに指導員・寮母との打ち合わせで、入所者の処遇計画ができるようになった。

今後さらに改善すべき点

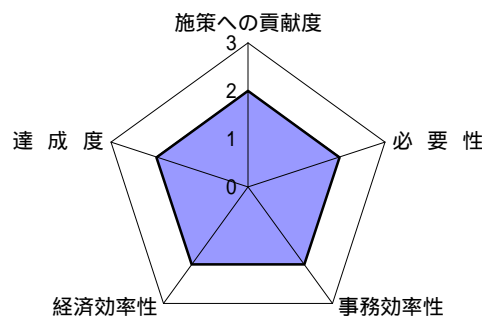
入所者の高齢化と弱者のため、トイレのバリアフリー化に整備をしていきたい。

平成21年度予算に反映する項目

今後の方向性

現状維持

内部管理事務事業、義務的業務は必要性を、また施策名がその他のものは施策への貢献度を評価していません。



課内評価と部長評価の平均点

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】